

第69回熊本県酪連通常総会開く



隈部 洋会長

熊本県酪農業協同組合連合会の第69回通常総会が6月27日（月）、本会会議室において開催されました。

総会は、隈部洋会長の挨拶、国・県・関係団体の来賓祝辞に続き、西阿蘇酪農業協同組合の山田政晴組合長を議長に選任し、令和3年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、注記表、附属明細書および剰余金処分案承認の件、令和4年度事業計画承認の件、第11次中期経営計画承認の件など7議案が上程され、いずれも原案通り承認されました。尚、今回は新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、3年ぶりに来賓の方々を迎えての開催となりました。

また当日は、任期満了に伴う役員改選が実施され、総会終了後の理事会において、代表理事会長に鹿本酪農農業協同組合の隈部洋組合長（再任）、副会長理事に菊池地域農業協同組合の三角修組合長（再任）、同・玉名酪農業協同組合の大村英治組合長（再任）、新設の代表理事専務に大川清治氏（昇任）、常務理事に小池泰隆氏（新任）、常勤監事に廣田浩治氏（新任）が選任されるなど、新たな執行体制が発足しました。尚、今期から定款変更により役員定数が改定されました。

【令和3年度事業概況】

令和3年度の我が国経済は、新型コロナウイルス変異株の感染が急拡大し、政府はワクチン接種の普及を最重点に、感染防止対策と経済回復の両立を目指しましたが、緊急事態宣言等の発出による活動制限と緩和が繰り返されることとなり、景気の停滞感が続きました。世界経済は、コロナ危

機からの回復の動きが見られるなか、ウクライナ紛争の激化による資源高など、経済への悪影響が危惧され、先行きは不透明で予断を許さない状況です。

酪農界においては、生乳生産は生産基盤対策の成果と冷夏も相まって、北海道・都府県ともに増産傾向で推移しました。その一方で、輸入飼料をはじめ生産資材、燃料価格の高騰に加え、生乳需給の大幅緩和など酪農経営に影響を及ぼしました。

乳業界においては、長期化するコロナ禍によって、業務用などの飲用消費の低迷が続く厳しい需給状況となりました。脱脂粉乳の在庫は過去最高水準に達することとなり、乳製品の過剰在庫対策と今後の需給調整に課題を残しました。

このような状況のもと、生産本部においては、生産基盤の維持・強化に向けて、新規就農者支援対策を実施するとともに担い手支援の強化に努めました。また、飼料価格高騰への対策として、飼料特別対策を実施したほか、酪農経営の安定的な継続を図るため、乳用種雌牛増産支援など各種事業を実施しました。

乳業本部においては、大手ドラッグストアのエリア拡大、コンビニ・量販店でのPB牛乳発売による売上増加や新製品の増販に努めるとともに、海外輸出の新たな展開として、マザーズコンソーシアム設立による販売体制づくりに取り組みました。熊本工場では、CO₂排出削減と事業継続性の向上を図るため、自家発電設備を更新するなど安全・安心な製造体制の構築に努めました。

管理部門においては、ICT活用によるリモート



総会風景

会議や面接等を実施し、給与事務や決裁手続きのデジタル化を実施しました。また定款や諸規程等の改定とともに、各種プロジェクトによる事業検討を進め、第11次中期経営計画の策定と本県酪農組織の整備、推進支援に取り組みました。

特別会計（阿蘇ミルク牧場）においては、牧場景観づくりや感染対策を講じた集客に取り組むとともに、プラボトル製品の製造を開始し外部販売の強化に努めました。しかし、外出自粛の影響を受け入場者が減少する厳しい実績となりました。また、収益性の向上を図るため、牛舎・チーズ施設の補改修を実施しました。

【令和4年度事業方針】

我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が残るなか、サービス業などの業種を中心に甚大な影響及び景気の停滞感が続いています。政府の「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」による経済再生が打ち出されましたが、新たな変異株への警戒など予断を許さない状況です。世界経済は、コロナ収束後を見据えた再開を目指すも、ウクライナ紛争が激化し、多方面にわたる影響が危惧される事態となっています。

酪農界においては、規模拡大や省力化など生産基盤対策の効果も相まって、生乳生産は北海道、都府県ともに増産傾向が続く一方で、輸入飼料・生産資材価格の高騰に加え、コロナ禍での需給緩和など厳しい経営環境となっています。また、畜産物価格関連対策については、加工原料乳生産者補給金と集送乳調整金を合わせ10円85銭に据え置かれました。

乳業界においては、長期化するコロナ禍の影響により、過去最高水準に積み上がった乳製品在庫に加え、危機的な需給緩和への早急な対応が求められるなか、Jミルクは、酪農・乳業双方の財源拠出による特別対策を実施するほか、広域での需給調整や消費拡大に向けた抜本的な対策が急務となっています。

このような状況のもと、本会では、第11次中期経営計画を策定し、省エネや環境対策をはじめSDGsに対応した持続可能な酪農・乳業と暮らしやすい地域社会の実現に向け、以下の事業に取り組みます。

生産本部においては、本県酪農の生産基盤維持のため、搾乳後継牛の安定確保ならびに飼養管理技術の普及推進を図ります。また、新規就農者育成支援事業をはじめ、ヘルパー事業の充実を図るとともに、酪農経営安定に向けた経済対策や後継



議長：山田 政晴 組合長

牛預託牧場の拡充などに取り組みます。

乳業本部においては、総合酪農組織としての強みを活かし、取引先への積極的な営業活動と新規市場開拓による売上拡大を図ります。また伸長する販売量に対応した製造施設の整備に取り組むとともに、新たな製造体制確立による効率化ならびに品質保証体制の強化を図ります。

管理部門においては、社会環境の変化に対応し円滑な業務運用を図るためICT化を推進し、業務の効率化と見える化を目指します。また、本県酪農の持続的な発展のため酪農組織の整備推進を支援するとともに、工場敷地開発など各種プロジェクトによる事業推進に取り組みます。

特別会計（阿蘇ミルク牧場）においては、牛舎・チーズ施設の投資効果を活かした収益性の向上を図るとともに、魅力ある牧場づくりによる集客対策に努めます。また、酪農・乳業の理解醸成施設としての機能強化に取り組みます。

役員名簿

役職名	氏名	所属組合名
代表理事会長	隈部 洋	鹿本酪農農業協同組合
副会長理事	三角 修	菊池地域農業協同組合
副会長理事	大村 英治	玉名酪農農業協同組合
代表理事専務	大川 清治	実務精通者
常務理事	小池 泰隆	実務精通者
理 事	野村 正剛	熊本宇城農業協同組合
理 事	森 浩一郎	菊池地域農業協同組合
理 事	森本 高司	八代地域農業協同組合
理 事	村田 輝幸	球磨酪農農業協同組合
理 事	衛藤 彰一	熊本酪農農業協同組合
理 事	山本 健二	大阿蘇酪農農業協同組合
理 事	坂本 保男	熊本乳牛農業協同組合
代表監事	内ヶ島賢勇	鹿本農業協同組合
監 事	中村 栄作	熊本市農業協同組合
常勤監事	廣田 浩治	実務精通者

第1回酪農後継者育成塾が開催されました

生産本部 営農指導課

去る6月2日（木）に令和4年度第1回酪農後継者育成塾がらくのうマザーズの大会議室で開催され、集合開催での実施となり28名が受講しました。



大川常務

らくのうマザーズ大川常務の挨拶では、北海道と都府県の生乳生産状況、昨今の酪農を取り巻く状況や乳価交渉の状況について話がありました。また、これから熊本の酪農を担っていく受講者

へ向けて激励の言葉がありました。

今回の育成塾は、らくのうマザーズ小池参事より、「オリエンテーション」と題し、生乳取引や生乳流通の仕組み、乳価構成の仕組み、牛飼いの心構えなどについてご講演頂きました。



小池参事

生乳取引や流通に関しては、生産者が搾った生乳が指定団体を通じてバルクからどのように流通し販売され、どのように乳価が決定しているのか、指定団体の役割や存在意義も含めて話がありました。

牛飼いの心構えについては、良質粗飼料の給与や暑熱対策の重要性について、また酪農は技術が経営に結びやすい産業で、その技術を実践するモチベーションややる気は何より大事だと話がありました。

最後に、「このような苦境の中ですが、ウィズコロナ、アフターウォーとなり、積み増しとなっている乳製品の在庫減少や飼料価格の安定化が来

れば、再び幸せな時代となるはず。それまで、基本に立ち返り、色々な策を講じながら踏ん張っていただきたい。」と後継者に向けて熱いメッセージを込め講演を締めくくられました。

午後は、班でのグループワークを実施し、「今の状況下、ご自身で出来ること」について意見交換が行われました。

どの班も活発に意見が交わされ、「苦しい時だからこそ、基本に戻ってやるべき事を当たり前にする。」という意見が出ていました。



グループワークの様子

受講後のアンケートでは、①他の牧場の意見が聞けてとても勉強になった ②このような苦境の時だからこそ、基本を見直し、無駄を無くしていきたい ③組織の説明、初めて知ることもあり、とても勉強になった など多くの感想を頂きました。

令和4年度も後継者の育成や交流を目的とした酪農後継者育成塾を全5回で開催予定です。ご興味のある方やお問い合わせ等ございましたら担当までご連絡下さい。

（営農指導課 096-388-3510 担当：作村）

異常乳が増加しています！いまいちど、確認を!!

らくのうマザーズ 営農指導課

熊本県内の異常乳によるローリー廃棄件数に関しまして前年度に続き、今年度も大変多い状況となっております。その中でも特に**異物混入（ゴミ）**が廃棄要因の大半を占めております（表1参照）。

【対策・確認】

- ① フィルターソックスはしっかり固定されていますか？
- ② パッキンや留め具の劣化はありませんか？
フィルターソックスが緩み異物が混入する可能性があります。
- ③ フィルターソックスは搾乳ごとに交換を！
- ④ 乳頭は綺麗に清拭しましょう
搾乳時の乳頭清拭を見直してみましょう。
特に乳頭口は念入りに拭きましょう。
- ⑤ 乳房炎牛は治療を！

右の写真のように乳房炎が原因でフィルターソックスが目詰まりし、縫い目が緩み、異物が混入する可能性があります。また、フィルターソックスが目詰まりした際に生乳がミルクジャーから送乳ポンプで送りきれず、オーバーフローする可能性があります。乳房炎牛は早期発見・早期治療を心がけましょう。

表1 熊本県内の異常乳ローリー廃棄発生状況

	令和3年度	令和4年度 (6月末現在)
抗生物質	9件	3件
異物混入（黒色斑点）	21件	2件
異物混入（ゴミ）	3件	11件
細菌汚染	10件	0件
血乳		0件
その他（凍結、加水等）	5件	2件
発生件数合計（件）	49件	18件
廃棄乳量合計（t）	241.4 t	87.6 t



COLUMN —コラム—



「日本を取り巻く海外の情勢と 輸入粗飼料の最新の情勢について」

昨年、一昨年と時期により今まで当たり前に輸入されていた輸入粗飼料の輸入が途絶え気味となり、供給不安を感じられた方も多かったと思います。今回はその様な原因の背景（日本を取り巻く輸入環境）と最新の輸入粗飼料の情勢を中心にお伝えしたいと思います。

○輸入環境（流通構造）の変化について

平成の初期まではアジアの中心は日本であり、大量の輸出入貨物を有する日本を寄港しない船会社はまず無かったのですが、現在は隣国中国が世界の工場と呼ばれているのは皆さんご存じの通り、最新の物流は中国発世界各国向けという流れが主流となっています。その為、海外籍の船会社は、需要のある中国にいち早く寄港して貨物を船積みし、欧米向けに直接船を回す事に躍起になっており、そこには「日本に寄港する」という発想はあまり無いのが現実です。この様な流通の構造変化がコロナ禍で特に顕著となり、輸入粗飼料のみならず、輸入製品を扱う全ての業者が輸入をスケジュール通りに行えず、日々その調整に苦しむ状況が継続しております。

○北米における最新の輸入粗飼料情勢について

詳細は別途掲載されております最新の粗飼料情勢を参照頂ければと思いますが、昨年に引き続き干ばつの傾向が続いている中、春先から6月まで気温も低く推移し、降雨なども断続的に続いた事もあり、ワシントン州やその他の北部各州では新穀の収穫がかなり遅れ、アルファルファの1番刈では良品不足が懸念されます。穀物相場の高騰より牧草から穀物に転作する懸念もあり、このままの生産スケジュールでは終盤の最後の番手の収穫が出来ない可能性もあります。この様な要因による生産量の低下、燃料や肥料価格の高騰や人件費上昇と言った生産コストの上昇等により、歴史的な高値相場が形成されそうな状況です。

南のカリフォルニア州では、冷涼な気候が品質に良い影響を与え、2月から生産が開始されたアルファルファの品質が非常に良品揃いとなりまし

たが、米国内の好調な乳価を背景に米国内酪農家や中東向け輸出需要の買付競争が激化しました。その後生産されるクレイングラスやスーダングラスもこの煽りを受けて歴史的な高値になりそうで、干ばつに起因する灌漑用水不足により、今後の牧草生産に支障を来すのでは無いか？とも危ぶまれており、今後共注意が必要です。

○輸入粗飼料の今後について

先日ある牧草サプライヤーが開催したセミナーに参加しました。対象は中国でしたが、中国も昨年対比乳価が2%下がっている様で、日本同様に飼料高騰に苦しんでいる様でした。その中では米国やUAE、スペインなどの国の専門家の意見が述べられておりましたが、総じて申し上げますと以下の通りでした。

- ①粗飼料が貴重で価格が高騰した際に餌の内容を見直す時には、濃厚飼料をより多給したり、または低品質の粗飼料への変更を検討する事もあるだろう。現在の中国における餌の給与状況（濃厚飼料多給型の場合）と牛のルーメンや長命連産の事を考えると、より濃厚飼料を給与するのはリスクであり、低品質の粗飼料への変更もコスト的にも依然高値となる筈。現在の環境下（粗飼料高騰下）においても、酪農の収益性は生産物の最大化にあるので、粗飼料品質への安易な妥協は避けるべき。
- ②今後飼料全般の確保が益々難しくなり、且つ高値が懸念される時代である。よって飼料供給体制の確保は今後も最重要な課題となって来るだろう。また、将来の不測の事態（供給遅延や供給停止等）に備えて幾つかの給与パターンを用意しておくべきかもしれない。
- ③海外からの飼料の確保が難しくなる中、なるべく国内での飼料の生産や副産物の有効活用



株式会社ゼン・トレーディング
営業部部长
伊尾 陽氏

を出来る限り検討すべき。それでも輸入せざるを得ない飼料については、品質に妥協しないBestなものを選択すべきである。

各国の置かれた酪農環境が異なりますので様々な意見が出るのは当然ですが、飼料高騰という事象に悩んでいるのは各国同じかと思われま。その様な中で、短期的であったり長期的なものであったりする意見かとは思いますが、皆様の今後の酪農経営を考えるにあたって一助になれば…、と思ひましてトピックスとして記させて頂きました。

最後になりましたが、相場は“山高ければ谷深し”と申します。値上がりが大きく且つ急であればあるほど、その反動も大きくなります。将来の事は誰も約束出来ませんが、「歴史は繰り返す」とも言われますので、現在の上げ相場の流れもいつの日か変わるものと思われま。また粗飼料に関して言えば、穀物相場の変動の半年から一年後に後追いするのが過去からの経験則ですので、穀

物相場の傾向が変わった際に思い出して頂けると幸いです。

経歴

伊尾 陽氏

平成7年3月 青山学院大学経営学部経営学科卒
 平成7年4月 全国酪農協同組合連合会入会
 平成7年8月 株式会社ゼン・トレーディング
 本店 粗飼料担当
 平成12年2月 株式会社ゼン・トレーディング
 サンフランシスコ支店 粗飼料担当
 平成16年8月 全酪連仙台支所購買畜産課
 粗飼料担当
 平成19年8月 全酪連本所購買部購買推進課
 粗飼料担当
 平成21年2月 全酪連福岡支所購買推進課
 粗飼料担当
 平成24年2月 全酪連福岡支所購買推進課 課長
 平成27年8月 全酪連名古屋支所購買畜産課 課長
 平成28年8月 全酪連名古屋支所 次長
 平成30年5月 株式会社ゼン・トレーディング
 営業部 部長

～酪農家の皆様へ～



FAX同報

メールで配信しています！

- ・携帯やパソコンで最新情報をいつでも、どこでも確認できる！
- ・家族みんなで登録・情報共有！
- ・ペーパーレスで経費削減！



仮登録はこちらのQRコードから空メールを送信
*読み取れない場合は、s2401@bmb.jpへ空メールを送信
 *送信後、システムに入力すると登録完了です！

お問い合わせは経営支援課まで
 ☎096-388-3516

繁殖・検診に絞った牛群検定の見方

生産本部指導部技術課

南 僚

今年も新人獣医が技術課に入ってきました。若手が増えるのは若手である私自身も刺激となります。切磋琢磨しながらともに学んでいけたらな、と思っております。技術課の巡回でご挨拶できる機会がありましたらよろしくお願いたします。

さて、本題ですが、前回（2021年6月号）の記事は読んでいただけでしょうか。内容は、より効果的な繁殖検診の項目として4項目（妊娠鑑定・フレッシュチェック・乾乳チェック・発情不明）をご提案しました。らくのうマザーズHPでバックナンバーをご覧になれますのでご参照ください。今回は前回の記事を踏まえて、検診での牛群検定の見方をご説明したいと思います。

そもそも、牛群検定はご覧になられていますか？乳量、体細胞数、乳脂肪率などをサラッと見て“そうか、そうか”でいつも通りに牧場に。あるいは、検定表を表面上見て、数字の羅列に降参してほとんど見ていない方もおられるのではないのでしょうか。ですが検定料を支払い、時間もかけてそれだけの利用ではもったいないの言うまでもありませんね。

牛群検定は様々な情報がぎっしりと詰まっており数字の羅列に降参するのもわかります。ですが、拒絶するのではなく一度手に取っていただき興味をもっていただけたらと思います。私も小学生の頃には新聞を読みなさいと言われたたちです。しかし当然ながら文字の洪水に拒絶反応があった記憶があります。ですが今なら興味のあるところだけ、理解できるところだけでも読んでみるべきだったと思います。前置きが長くなりましたが、今回は要点を絞った形で繁殖・検診での活用についてご提案したいと思います。

まず、繁殖・検診で活躍できる個体検定日成績表をご紹介します。乳脂肪率と蛋白質率のグラフが両方に伸びているページです（図）。このページも活字だらけではありますが下記の数点をご覧ください。

- ・牛の並びが搾乳日数順（図中①）
- ・2本の赤い実線（図中②）
- ・分娩予定（図中③）

の3点です。

この表の一番上の牛は分娩して間もない牛で下の方に記載のある牛は分娩から日数が経過した牛です。拡大四桁の少し横に搾乳日数（搾乳又は乾乳日数と記載されています）も明記されています。

この平均値を取ったものが平均搾乳日数です。また、この目標値は一般的に160日とされていますが、目標値に近ければ近いほど牛群の乳生産量は最大化します。

また、赤い実線（図中②）が2本引かれていることにも注目してください。赤線の1本目は搾乳日数45日、2本目は150日を境に引かれています。この線がデッドラインとも言え、一目でフレッシュチェック完了しているべき牛や受胎の遅延が起きている牛を把握することができます。

さらに、牛の受胎も同時に確認することができます。“繁殖の状況”の項目があります。その中でも“授精-月日”と“分娩予定”を見てください。鑑定後、+判定だった牛にのみ“分娩予定”（図中③）に予定日の記載があります。

以上を確認したらあとは簡単です。2本の赤い実線（図中②）の中にある牛は繁殖ステージとして受胎させたい期間です。この中にある牛をいかにして受胎させるのかが高い繁殖効率（平均搾乳日数160日）を維持するポイントとなります。逆を言えば2本目の赤線（デッドライン）を越えても分娩予定が空欄の牛は、急ぎ技術者に診せ、急ぎ受胎させる必要があります。繁殖検診の時もその旨を伝えることが重要です。

一方、1本目の赤線よりやや上にいる、搾乳日数が45日程度の牛は「発情が来る！その発情を見逃すことなく受胎させるぞ！」という牛です。分娩後60日ほどの牛は上質な卵胞を持っていることは以前の梶山獣医の記事（2021年9月号参照）で

も紹介がありましたのでここは農家さんの観察目の見せ所です。ですが、「そう言われて観察していたけども発情は分からなかった」ということがあります。この場合、何かしらの繁殖障害（のう腫、蓄膿症など）に罹患している場合が多いことから、分娩後40日のフレッシュチェックを重要視してください。

まとめると

- ・ 1 本目の赤線（搾乳日数45日程度）は発情注意
- ・ 2 本の赤線内にある牛は受胎の期間
- ・ 2 本目の赤線を越えて空胎の牛は受胎の遅延

ということになります。

この個体検定日成績表はエクセルデータとして活用することもできます。生産者の皆さんでデータ処理することができますのでフレッシュチェック、妊娠鑑定、乾乳チェックなど忘れがちな項目も忘れず網羅することができます。

また、一つの共通したフォーマットに情報を集約することも重要だと思います。現状、繁殖の記録は様々なやり方があるかと思えます。手書きノートだったり、ホワイトボード、繁殖カレ

ンダーなど十人十色です。しかし、この検定表は全国共通でどの技術者が見ても牛群を理解することができます。牛群管理では外部のコンサル・アドバイスを受けて、相談することは少なくないはずですが。そのためにも誰もが見てわかるフォーマットを充実させておくことは重要です。この機会に授精・受胎の報告や繁殖させない牛の報告など情報の不足がないかチェックしてみてもはいかがでしょうか。

このように検定は一目で牛群を理解できる要素が工夫を凝らしてたくさん盛り込まれています。今回ご紹介したものは繁殖・検診というかなり絞られた点についてのみでした。これはほんの一例に過ぎません。繁殖・検診だけでなく、このほかにもたくさん群管理の手助けになることがあります。今回は書き切れませんが興味が出て、さらに知りたい方がおられましたら家畜改良事業団のHPにある“新しい牛群検定成績表について”無料でわかりやすく説明されていますので、ぜひご覧ください。

また、本会経営支援課の牛群検定担当者へお気軽にお問い合わせください。

図 検定成績表（個体検定日成績）

① ② ③

発情注意

受胎の期間

（楕円で囲まれた牛）
受胎の遅延